

心身共に健康な子どもをはぐくむ食に関する指導と校長の在り方

発表者(仙台市B地区)

I はじめに

「食」は人間が生きていく上で基本的な営みの一つであり、健康な生活を送るために健全な食生活は欠かせないものである。

しかし、近年、食生活を取り巻く社会環境の変化に伴い、偏った栄養摂取や朝食欠食、孤食などの食生活の乱れが見られ、肥満傾向の増大、過度の痩身、また生活習慣病や小児成人病の増加などの問題が指摘されている。

特に成長期にある児童にとって、健全な食生活は健康な心身をはぐくむためには欠かせないものであると同時に、生涯にわたる食習慣の形成に対して大きな影響を及ぼすものであり、極めて重大な問題となってきた。

このような折、文部科学省から平成12年3月「食に関する指導参考資料」が示され、平成15年3月には仙台市教育委員会から「食に関する指導の手引き」が出された。さらに、平成17年に「食育基本法」が施行され、これに基づき設置された食育推進会議において平成18年には「食育推進基本計画」が決定されるなど、学校での食育の推進が強く求められている。

そこで、仙台市校長会B地区では、地区内の小学校児童の食に関する実態はどうなっているのか、それを校長としてどうとらえ、どんな対策を取っているのか等について調査し、「心身共に健康な子どもをはぐくむ食に関する指導と校長の在り方」について探ることにした。

II 研究のねらい

- 1 食に関する指導及び児童の食生活の実態を把握し、校長として取り組まなければならない課題を探る。
- 2 明らかになった課題について、先進的な取り組みを行っている学校の実践例を掘り起こし、食に関する指導と校長の在り方を明らかにする。

III 研究の進め方

1 第1年次(平成17年度)

質問紙法によるアンケート調査を実施し、その集計結果を分析・考察することにより、校長としての課題を探る。

2 第2年次(平成18年度)

第1年次の調査結果から浮かび上がった課題について先進的な取組を行っている学校の実践例を掘り起こし、校長としての指導・支援の在り方を明らかにする。

IV 研究の概要

1 学校給食における実践例

(1) 「食農教育」の取組(〇〇小)

①ねらい

「食」と「農」を生きる力の源泉と考え、食に関する指導や農業体験活動をとおして、豊かな人間性の育成を図る。

②取り組みの概要

ア 食農教育全体計画の作成と実施

- ・目標、各教科・領域との関連や、食に関する指導等の構造化

イ 農業体験活動の充実

- ・生産農家での体験活動
- ・学童農園での体験活動
- ・校地内の畑での栽培活動

ウ 給食指導の充実

- ・さまざまな献立の工夫
- ・広報活動の工夫と家庭や地域との連携の強化

エ 人材の活用

- ・栄養士による学級活動での指導
- ・特別非常勤講師の活用
- ・「すこやか教室」(肥満児童への指導)の実施…養護教諭、栄養士、体育主任、学級担任の連携

③成 果

- ・児童が自分の食生活を振り返り、健康のための「食べるもの」が分かるようになってきた。
- ・生産者との関わりや自らの栽培活動を通して、食べ物の大切さや感謝の気持ちを持つようになった。

(2) 「残食率」減少への取り組み（〇〇小）

①ねらい

望ましい食習慣の指導を通して、給食の残食率を低く抑え、食に関する児童の意識を高める。

②取り組みの概要

- ア 朝食摂取等の生活実態調査の実施
- イ 学級担任と連携した、食に関する指導の充実
- ウ 「今日の献立」を毎日の発行や「保健給食だより」を通して家庭との連携

③成 果

- ・児童の給食の残食率が減少するとともに、保護者が望ましい食事の在り方を理解するようになってきた。
- ・朝食摂取などの基本的な生活習慣も、望ましい傾向になってきた。

2 「食習慣」確立に向けた実践例

(1) 生活実態調査の工夫（〇〇小）

①ねらい

生活実態調査を工夫し、調査を通して基本的な生活習慣の定着や家庭学習の習慣化を図る。

②取組の概要

- ア 起床・就寝時刻、あいさつ、朝食摂取学習時間等10項目の調査
- イ 年3回実施（長期休業明け）

③成 果

- ・自己チェック表で高ポイントを目指す児童が増え、基本的な生活習慣等の改善が見られた。
- ・保護者の自覚や協力が得られるようになった。

(2) 広報活動への取組（〇〇小）

①ねらい

食材や健康等に関する情報を効果的に発信することにより、食に対する自己管理能力や望ましい食習慣を養う。

②取り組みの概要

- ・給食だよりの工夫と充実

③成 果

- ・食材等に関する知識も豊かになり、食に対する関心が高まってきた。

V 研究のまとめと今後の課題

1 校長としての取り組み

(1) 実践意識の高揚

- ①全体計画の作成と実践
- ②共通理解の推進
- ③体験活動の推進

(2) 学校・家庭・関係機関との連携強化

- ①広報活動の推進と情報の双方向化
- ②開かれた学校の推進

2 今後の課題

(1) 食に関する指導の組織的・計画的な推進

- ・全体計画を基にした指導時間の確保と体験活動の推進

(2) 栄養教諭・栄養士を中心とした全校体制での取り組みの推進

- ・栄養管理に関する教職員・保護者への啓発
- ・実践授業の推進

(3) 家庭における食に対する意識の高揚

- ・朝食摂取、早寝早起き等、児童の生活リズムの確立
- ・望ましい食習慣の在り方等、食に関する知識の習得

以上に示したように、学校教育目標の具現化に向け、食に関する指導をはじめとする多様な教育内容を統合・実践化していく指導力が校長に求められていると言えよう。